

環境科学会 2023 年会におけるシンポジウム企画について

年 会 委 員 会

1. シンポジウムの実施要領（概要）

1) 下記 7 件の企画シンポジウムを開催いたします。

2) オーガナイザーは、年会委員会より送付された所定の様式により、企画したシンポジウムの詳細プログラム（演題・登壇者・所属）を作成し、**2023年5月31日（水）（厳守）**までに年会委員会に提出してください。また登壇者全員分の発表要旨原稿（原則として1演題あたり A4 版 2 頁，または1シンポジウムで A4 版 2 頁，書式は研究発表と同じ）をとりまとめて、原稿提出締切日（**2023年7月12日（水）17時（厳守）**）までに年会委員会へ PDF ファイル（camera-ready）をメール添付でお送りください。事務局では修正ができませんので、オーガナイザーは必ず印刷をして、写真や図表が不鮮明でないこと、様式に誤りがないことを確認してください。

3) シンポジウムの構成や当日の進行・会場運営はオーガナイザーに一任いたします。

問合せ先

公益社団法人 環境科学会 年会委員会シンポジウム担当 (E-mail: sympo(at)ses.or.jp

※(at)を@に変換してください。)

2. シンポジウムの一覧

*各シンポジウムの最新情報については、[学会ホームページ](#)

(<https://www.ses.or.jp/conference/2023conf/>)にて、適宜更新しご案内致します。

タイトル	シンポ・1. 「グローバルサウス問題とSDGs」
プロジェクト名	なし
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	山本佳世子（電気通信大学） 岩本茂子（電気通信大学）
趣旨・内容	グローバルサウスとは発展途上国と同様の意味で用いられる言葉であり、南半球に多いアフリカ、ラテンアメリカ、アジアの新興国などが当てはまる。一方、2015年の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標として持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が記載された。この目標は17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。本シンポジウムでは、若手研究者のこうした地域を対象とてSDGsに着目した研究成果について紹介するとともに、参加者とともに、グローバルサウス問題とSDGsの関連性について議論する。

タイトル	シンポ-2. 「市民や企業の環境配慮行動促進のための社会実験と実装」
プロジェクト名	なし
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	加藤尊秋 (北九州市立大学) 近藤加代子 (九州大学)
趣旨・内容	市民や企業の環境配慮行動を促進するためには、環境政策や対策への反応を正確に調べ、それらを適切に設計するとともに、多様な関係者をうまくつないでいく必要がある。このシンポジウムでは、プラスチックごみ対策や省エネルギーに関する社会実験、および、社会実装の事例をもとに、環境配慮行動促進策の効果計測と実装のために用いられる多様な手法について理解し、それらをうまく組み合わせて実践的な結果を得るための方法を議論する。

タイトル	シンポ-3. 「地域と地球をつなぐ階層的環境ガバナンス」
プロジェクト名	総合地球環境学研究所実践プログラム「地球人間システムの連環に基づく未来社会の共創」、文科省「地域の脱炭素社会の将来目標とソリューション計画システムの開発と自治体との連携を通じた環境イノベーションの社会実装ネットワークの構築」
公募の有無	有
オーガナイザー および連絡先	谷口真人 (総合地球環境学研究所) makoto (at) chiyu.ac.jp ※(at)を@に変換してください。 馬場健司 (東京都市大学) kbaba (at) tcu.ac.jp ※(at)を@に変換してください。
趣旨・内容	人新世における地球環境問題は、異なるイシューが複雑に絡み合う複合的な地球規模課題となり、その解決に向けたガバナンスでは、要素間を繋げるシステム思考や、トレードオフとシナジーなどのネクサスアプローチが、地域と地球をつなぐ階層的ガバナンスとして求められている。本シンポジウムでは、カーボンニュートラルにおける階層的ガバナンス、沿岸域の汚染と資源管理のマルチスケールガバナンス、Nature-based solutionにおける階層的ガバナンスなど、様々な空間スケールを階層的につなぐガバナンスのあり方を議論する。

タイトル	シンポ-4. 「気候変動適応の哲学に関する対話」
プロジェクト名	なし
公募の有無	有
オーガナイザー および連絡先	白井信雄 (武蔵野大学) n-shirai(at)musashino-u.ac.jp ※(at)を@に変換してください。 田村典江 (事業構想大学院大学) norie.tamura(at)mpd.ac.jp ※(at)を@に変換してください。
趣旨・内容	気候変動のなかでも適応策の研究や社会実装の試みは、予見される気候の変化の中で、地域の暮らしや社会がどう向き合っていくかという問いに応えることにほかならない。この点に目をつぶって、現状のまま (BaU) の生活を継続することだけを目的に、個別具体の技術開発をすることは十分ではなく、人々の適応のキャパシティを小さくしてしまう (社会の持つレジリエンスを弱める) とい点で逆効果になる可能性すらある。変わる気候の中で、人間と自然はどう付き合うのか。それを考え、「気候変動適応の哲学」の糸口を明らかにする。

タイトル	シンポ-5. 「地域生活分野への気候変動影響の評価と適応策の検討」
プロジェクト名	環境研究総合推進費 S18 テーマ4 「国民の生活の質 (QoL) とその基盤となるインフラ・地域産業への気候変動影響予測と適応策の検討と評価」
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	栗栖 聖 (東京大学) 谷川寛樹 (名古屋大学)
趣旨・内容	2018年に施行された「気候変動適応法」では、各都道府県・市町村による地域気候変動適応計画の策定が努力義務化されています。人口減少や経済的停滞など地域社会において深刻な状況下、気候変動はこれらに追加的・相乗的に作用するため、地域生活への気候変動影響を評価すると共に適応策に関する科学的知見を集積し、地域との対話を進めることが求められています。本シンポジウムでは、地域生活を支える地域産業、建造物、市街地環境、土地利用、交通の各分野からの気候変動影響評価、地域の脆弱性評価に関する最新の知見を紹介すると共に、地域での適応のあり方に関して議論します。

タイトル	シンポ-6. 「水道水質検査におけるスクリーニング分析法の実運用化の現状と課題」
プロジェクト名	厚生労働科科研費「水道水及び原水における化学物質等の実態を踏まえた水質管理の向上に資する研究」
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	小林憲弘（国立医薬品食品衛生研究所） 高木総吉（大阪健康安全基盤研究所）
趣旨・内容	人口減少が加速している日本において、将来にわたって安全な水道水が供給されるためには、より少ない人員と労力で水質検査を行えるように迅速・簡便な新しい検査方法を開発・導入していく必要がある。現在、検査対象物質の標準品の測定情報を予めデータベースに登録し、検査時には標準品を測定せずに広範囲の物質をGC-MSやLC-MSを用いて一斉に測定する「スクリーニング分析法」の水道水質検査への適用が検討されている。しかし、水道水質検査におけるスクリーニング分析法の実運用には現状では様々な課題があることから、スクリーニング分析法の開発の現状と実運用化に向けた課題について議論する。

タイトル	シンポ-7. 「地域脱炭素化の加速に向けた計画策定の支援システム」
プロジェクト名	文部科学省「大学の力を結集した、地域の脱炭素加速のための基盤研究開発」
公募の有無	無
オーガナイザー および連絡先	荒巻俊也（東洋大学） 藤田壮（東京大学）
趣旨・内容	文部科学省「大学の力を結集した、地域の脱炭素加速のための基盤研究開発」の採択課題「地域の脱炭素社会の将来目標とソリューション計画システムの開発と自治体との連携を通じた環境イノベーションの社会実装ネットワークの構築」（代表 藤田壮）においては、地域における脱炭素化の計画策定の支援に資する研究開発を進めている。本シンポジウムは2部構成として、第1部では本研究課題の全体像と個別地域・分野での研究開発の状況を、第2部では北九州における戸建住宅の脱炭素化をテーマに行った住民参加の実証実験の結果を紹介する。